大海神社

大海神社は、3 世紀初頭の住吉大社の創建より古い歴史を持つ。大海神社は、元々船乗りが崇拝する強力な海の神である綿津見を祀っていた。ほとんどの参拝者は航海中の安全を祈願した。2000 年前は西門のすぐ先に大阪湾が広がっていたが、数世紀にわたる泥の堆積や埋め立てにより、海岸線は神社から遠ざかってしまった。

大海神社は、津守家が主宰していたが、その祖先をたどると伝説の人物、田裳見宿禰に行きつく。古代の物語によると田裳見宿禰は、大海神社の初代の神主で、神話上の天皇の祖先である瓊瓊杵命の子孫であるとされている。3 世紀に神功皇后は田裳見宿禰に住吉大社の造営を命じ、住吉三神と呼ばれる 3 人の海の神を祀らせたという。田裳見宿禰は、津守（港を守る番人）という名を与えられた息子に新しい神社の造営を任せた。津守家の分家は、明治時代（1868-1912）の宗教改革まで住吉大社と大海神社を率いた。

現在、大海神社には豊玉姫命と豊玉彦命の二神が祀られている。